

6 和歌

名前

年組番

100点

1 「万葉集」 次の和歌について、あとの問いに答えなさい。  
(2) 完答 8点×5

- A 君待つと 我が恋ひ居れば 我が屋戸の  
すだれ動かし 秋の風吹く 額田王
- B 東の 野に炎の 立つ見えて  
かへり見すれば 月傾きぬ 柿本人麻呂
- C 春過ぎて 夏来るらし 白たへの  
衣干したり 天の香具山 持統天皇

(1) 「動作の主体」——線の動作主を、次から一つ選びなさい。

ア 君 イ すだれ ウ 秋の風

(2) 「句切れ」 Cの和歌の二か所の切れ目を書きなさい。  
( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

(3) 「枕詞」 Cの和歌の枕詞を抜き出さない。

(4) 「和歌の鑑賞」 次の a・b の鑑賞文にあてはまる和歌を、A～Cから選びなさい。

a 夜明け頃の雄大な風景を見た作者の感動が、写真的に表現されている。

b 愛する人の訪れを待ちわびる恋心を、季節感をそえて歌っている。

2 「古今和歌集」 次の和歌について、あとの問いに答えなさい。  
(2) 完答 5点×6

- D 人はいさ 心も知らず ふるさとは  
花ぞ昔の 香に<sup>①</sup>にほひける 紀貫之
- E 花の色は 移りにけりな いたづらに  
わが身世にふる ながめせしに 小野小町
- F 秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども  
風の音にぞ おどろかれぬる 藤原敏行

(1) 「歴史的仮名遣い」——線①・②を現代仮名遣いに直して書きなさい。

① ( ) ② ( )

(2) 「係り結び」 係り結びが用いられている和歌を D～F から二つ選びなさい。

D ( ) E ( )

(3) 「句切れ」 D・Eの和歌の句切れを書きなさい。

(4) 「和歌の鑑賞」 次の鑑賞文にあてはまる和歌を D～F から一つ選びなさい。

・聴覚を通して作者が感じた季節の移り変わりが表現されている。

3 「新古今和歌集」 次の和歌について、あとの問いに答えなさい。  
(2) 完答 6点×5

- G 駒とめて 袖うちらはらふ 陰もなし  
佐野のわたりの 雪の夕暮れ 藤原定家
- H 玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば  
忍ぶことの 弱りもぞする 式子内親王
- I 道の辺に 清水流るる 柳かげ  
しばしとてこそ 立ちどまりつれ 西行法師

(1) 「歴史的仮名遣い」——線①・②を現代仮名遣いに直して書きなさい。

① ( ) ② ( )

(2) 「係り結び」 係り結びが用いられている和歌を G～I から二つ選びなさい。

G ( ) I ( )

(3) 「体言止め」 体言止めが用いられている和歌を G～I から一つ選びなさい。

G ( ) I ( )

(4) 「和歌の鑑賞」 次の鑑賞文にあてはまる和歌を G～I から一つ選びなさい。

( ) ( )

## 6 和歌

名前

年組番

100点

1 「万葉集」 次の和歌について、あとの問いに答えなさい。  
(2) 完答 8点×5

- A 君待つと 我が恋ひ居れば 我が屋戸の  
すだれ動かし 秋の風吹く 額田王
- B 東の 野に炎の 立つ見えて 柿本人麻呂  
かへり見すれば 月傾きぬ
- C 春過ぎて 夏来るらし 白たへの  
衣干したり 天の香具山 持統天皇

(1) 「動作の主体」——線の動作主を、次から一つ選びなさい。 (ウ)

ア 君 イ すだれ ウ 秋の風

(2) 「句切れ」 Cの和歌の二か所の切れ目を書きなさい。 (二句) (目と) (四句) (目

(3) 「枕詞」 Cの和歌の枕詞を抜き出さない。

(白たへの)

(4) 「和歌の鑑賞」 次の a・b の鑑賞文にあてはまる和歌を、A～Cから選びなさい。

a 夜明け頃の雄大な風景を見た作者の感動が、写生的に表現されている。 (B)

b 愛する人の訪れを待ちわびる恋心を、季節感をそえて歌っている。 (A)

2 「古今和歌集」 次の和歌について、あとの問いに答えなさい。  
(2) 完答 5点×6

- D 人はいさ 心も知らず ふるさとは  
花ぞ昔の 香に<sup>①</sup>にほひける 紀貫之
- E 花の色は 移りにけりな<sup>②</sup> いたづらに  
わが身世にふる ながめせしに 小野小町
- F 秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども  
風の音にぞ おどろかれぬる 藤原敏行

(1) 「歴史的仮名遣い」——線①・②を現代仮名遣いに直して書きなさい。

① ( ) ② ( )

(2) 「係り結び」 係り結びが用いられている和歌を D～F から二つ選びなさい。 (D・F)

(3) 「句切れ」 D・E の和歌の句切れを書きなさい。

D (二句切れ) E (二句切れ)

(4) 「和歌の鑑賞」 次の鑑賞文にあてはまる和歌を D～F から一つ選びなさい。

・聴覚を通して作者が感じた季節の移り変わりが表現されている。 (F)

3 「新古今和歌集」 次の和歌について、あとの問いに答えなさい。  
(2) 完答 6点×5

- G 駒とめて 袖うちはらふ<sup>①</sup> 陰もなし<sup>②</sup>  
佐野のわたりの 雪の夕暮れ 藤原定家
- H 玉の緒よ 絶えなば絶えね<sup>②</sup> ながらへば  
忍ぶことの 弱りもぞする 式子内親王
- I 道の辺に 清水流るる 柳かげ  
しばしとてこそ 立ちどまりつれ 西行法師

(1) 「歴史的仮名遣い」——線①・②を現代仮名遣いに直して書きなさい。

① ( ) ② ( )

(2) 「係り結び」 係り結びが用いられている和歌を G～I から二つ選びなさい。 (H・I)

(3) 「体言止め」 体言止めが用いられている和歌を G～I から一つ選びなさい。 (G)

(4) 「和歌の鑑賞」 次の鑑賞文にあてはまる和歌を G～I から一つ選びなさい。

・人に知られてはならない激しい恋心を情熱的に歌っている。 (H)